

第4回 市長対談

～上富良野町長 向山富夫氏～



7月21日、前葉市長が、津市との友好都市提携15周年を迎えた北海道空知郡上富良野町を訪問し、これまでの交流の歴史、そしてこれからの新しい連携について、向山富夫上富良野町長にお話を伺いました。

収録場所 北海道空知郡上富良野町「土の館」前、芝生公園

🍷 友好都市提携の原点

市長 今回の市長対談は、友好都市提携15周年を迎えた上富良野町の向山富夫町長をお迎えし、お届けします。向山町長よろしくお願ひします。

向山町長 ようこそ上富良野町においでいただきました。

市長 初めて上富良野町を訪問させていただきました。心が洗われるような風景が続く、とても素晴らしい場所ですね。

向山町長 ありがとうございます。上富良野は北海道の内陸に位置し、四季にメリハリがあり、夏と冬の温度差は50

度にもなるんですよ。

市長 そうなんですか。さて、上富良野町と津市のつながりは、明治30年に安濃郡安東村（現在の津市納所町）出身の田中常次郎さんをはじめとする三重団体の一行が上富良野へ移住し開拓したことから始まるんですね。

向山町長 はい。富良野という名前の由来は、もともとアイヌ語で「フラヌイ＝硫黄の匂いがする場所」という意味なんです。地名の由来にもなるほど、農作物を育てるには条件が良くなかった土地に、田中常次郎さんら一行が入植されたのが始まりです。

市長 記録によれば、旧津市の安東・一身田、旧久居市の戸木、旧安濃町の明合、旧美里村の家所、旧芸濃町の安西・河内・明、旧香良洲町、そして旧一志町の高野・日置といった地域から、35家族174人が入植されたと伝えられてい

ますね。

向山町長 そうですね。当時入植された皆さんは、言葉では言い表せないほどのご苦労をされたと思います。

さらには大正15年に十勝岳が大噴火し、一時は廃村かといわれるほどの厳しい状況の中、当時の上富良野村を再興させたのが、一身田村（現在の津市一身田町）出身の吉田貞次郎村長でした。

市長 このように、明治30年から始まった津と上富良野のつながりは、その後、平成9年に上富良野開基100周年を記念して締結された「津市上富良野町友好都市提携」へと続きますね。

向山町長 はい。津市と友好都市提携を締結させていただいた後、私は上富良野町議会議員を務めましたので、提携の意義を非常に強く感じたことを、昨日のこのように覚えて



吉田貞次郎家族写真(本人／後列中央)